

お別れの時!!

3月11日(木)、卒業式が無事に終了しました。

卒業式は、今年もコロナ禍であるため、規模を縮小し開催されました。その影響で在校生は、昨年に引き続き卒業式に参加することができませんでした。

しかしながら、在校生代表で生徒会長の榎さんが唯一参加することができ、みんなの思いが詰まった“送辞”を、先輩たちに届けました。

先輩たちの“答辞”では、後輩に向けたメッセージも込められていました。その“答辞”を紹介します。しっかり読みましょう!

令和2年2月27日、全国に出された休校要請。あの時、僕達の時間は止まりました。初めは関係ない、すぐに終わる、そう思っていたことが学校を、日本を、世界を変えました。休みが待ち遠しかったはずなのに。学校に行くことが許されなくなり、自分の世界が狭くなりました。

「学校に行きたい」「友達に会いたい」「部活動をしたい」「受験はどうなるのか」当たり前と思っていたものが変わり、先の見えない不安が生まれました。しかし、その答えは誰にもわかりませんでした。学校が再開された6月、マスクはあるけれど、友達や先生の顔を見て安心しました。たくさんの制限がありました。嫌だったのは、前を向き黙って食べる給食。皆で会話をしながら食事をすることはなくなりました。3年前、こんなことになるとは思っていませんでした。

体育館でたくさんの人に迎えられた入学式。先輩の迫力ある合唱・演奏。入会式で先輩が踊ってくれたよさこい、憧れました。しかし、先輩のように成長できるか、不安も募りました。そんな不安を残したまま始まった林間学校。友達と過ごす夜。流れ星が僕たちの上を通りていきました。たくさんの友達の笑顔を見て、この学年にはゆかいな仲間がたくさんいると思いました。林間に行き、皆がいる、仲間がいるという安心感が生まれ、不安はなくなりました。

こんな時間が続き、これまでの先輩と同じように卒業すると思ってきました。今年は、総合体育大会、体育大会、合唱コンクール大きな行事は全て中止になりました。体育大会の演技には思い入れがありました。1年生のリズム体操「1UP」。

「上手い人を前にします」先生に言われました。最初は恥ずかしいと思っていました。練習を重ね、「前に行きたい」と思い、自分で考えられるだけ工夫しました。恥ずかしいと思う気持ちが消えた日、やっと前に行くことができました。

負けないこと 投げ出さないこと

逃げ出さないこと 信じ抜くこと

ダメになりそうな時 それが一番大事

高い声を張り上げ、歌を歌いました。最後に皆で心を一つにつくった「1UP」の文字。この演技から「1UP」を意識し、行動できました。そして、この経験が2年生への「よさこい」につながりました。楽しみにしていたよさこい。夏休み、卒業生から振り付けを習いました。その難しさに自主練習をする人が増え、その中で踊る喜

びに気がつきました。僕は夏休みにけがをし、参加できませんでした。皆の練習を一人遠くで、見るのは辛かったです。そんな中、演技の最初「ホラ貝」を吹く役割を与えてもらいました。「よさこい楽しい」という仲間が増えました。互いに教え合い、踊りのレベルがあがりました。選ばれた人が着ることのできる、赤と黒のはっぴが着たい。その思いで練習にも熱が入りました。それに負けないよう、僕も練習を頑張りました。そして、もう一つ「喜火 行くぞ」というかけ声。皆の思いを背負って空に向かい、声を張り上げました。本番、皆で踊り切った後の一体感、喜びが広がりました。「一瞬のためにがんばり続ける」大きさも知りました。今年、体育大会の代わりに皆で一緒に「よさこい」ができ、やっと皆と踊ることができたのも嬉しかったです。

3年前始めた部活動。部活動でできた仲間、充実した放課後。先輩との上下関係、毎日の朝練、学校生活との両立にも苦しみました。後輩ができ、気がつけば先輩の引退。先輩ともう部活動ができないと思うと自然に涙が流れました。1年後、後悔無く部活動を終えたい、そう思いました。区切りのつけ方に苦しんだ部活動。発表の機会が少ない文化部に手をさしのべてくれたのは地域の方々でした。「笛フェス」で自分たちの作品を販売させてもらいました。このように地域の支えを知り、ボランティアにも力を入れました。落ち葉清掃を朝、教頭先生とできたことが楽しかったです。ボランティアマスターを目指し、頑張れたのは認めてくれる先生の存在があったからです。

そんな部活動も3ヶ月時間が止まりました。再開しても思うように動かない身体、目標を失い、どうがんばればいいのか、わからなくなっていました。チーム内でも温度差が生まれました。受験への不安に負けそうになりました。一人ずつの思いを聞いてくれ、あと少しチームで頑張りたいと思いました。そんな時、顧問の先生方が必死になって、交流試合や発表の場を用意してくれました。休校中に顧問の先生が変わりました。正直、とても辛かったです。けれど、新しい先生の練習のおかげでチームが変わり、初勝利を果たしました。交流試合、相手チームには前の顧問の先生がいました。勝ちたかったです。けれど、負けてしまいました。それでも先生は僕達に「強くなったな」と声をかけてくれました。力を認めてもらえたことで区切りがつきました。

コンクール中止、事前に知っていたのに、先生から伝えられ、初めて実感がわきました。先生は代わりの場を必死で準備してくれたけれど、自分たちはなにもできずもどかしい思いもしました。その思いを解消し、先生に成長した姿を見せるためにも高校でも音楽を続けたいと思います。夏の大会に代わるものはない。けれど、この交流大会に代わるものもありません。後悔無く終えることは難しかったけれど、経験をきっと意味のあるものにします。

後輩の皆さん。今年ほど皆さんと「つながる」難しさを感じた年はありません。最初は委員会も一緒にできませんでした。今週、掲示板に貼られた皆さんからのメッセージ。距離はあったけれど、心は近くなりました。そして、昨日。僕達の下校時間につくってくれた花道。今年は在校生に拍手で見送られることはないとっていました。今日、この場にいない在校生の皆さんとも一緒に卒業式ができた。私達はそう思っています。ぜひ、学年をこえた縦のつながりを大切にしてください。

裏面に続く